

令和7年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
(Ⅰ 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
事業内容報告書の概要

地方公共団体名【京田辺市】							
令和7年度に実施した取組の内容及び成果と課題							
1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等) 本市は市内に府営住宅が所在しており、以前は中国残留邦人やその家族が多く居住していたため、これらの地域を校区とする小・中学校において中国語を中心とした外国籍児童生徒への指導を行うとともに、これらの家庭に対して市長部局(福祉部局)と連携を行い、支援体制の構築を図ってきた。 昨今は中国籍のみならず、多様な外国籍児童生徒が市内の様々な地域に増加しており、各学校において言語面や出身国との学習の進度の違いなど、対応に苦慮する場面が多く見られる。 このため、外国籍児童生徒への指導ノウハウのある田辺東小学校もしくは培良中学校を中心に、京都府国際センターなどと連携しながら学校における支援体制の構築を充実させることを目的としている。 具体的な体制としては、対象となる外国籍児童生徒に対して必要に応じて特別支援教育支援員を配置し、学内での言語面の支援を行うとともに、外国人としての生活相談等は京都府国際センターに繋ぐなど各学校内でのノウハウの蓄積を図っていく。							
2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること (1)個別ケース会議をその都度開催 (2)特別支援教育支援員(市会計年度職員)の配置 (3)対象児童生徒の日本語能力の個人差に応じた丁寧な支援 (4)ホームページ等での外国籍児童生徒の受入れについての取り組み紹介 (7)翻訳器(ポケトーク)の活用 (10)特別支援教育支援員(市会計年度職員)の配置							
3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること (1)成果:速やかな情報共有と各関係機関との連携による就学支援 課題:対象児童生徒数が増加してきた場合の協議あり方の検討 (2)成果:支援員の配置による学習支援の充実 課題:配置支援員の充実(予算・採用) (3)成果:より丁寧な指導による日本語の定着 課題:語学力の支援と発達面での支援の棲み分け (4)成果:新規受け入れ校での活用 課題:日本語能力のばらつきに応じた対応 (7)成果:コミュニケーションの円滑化 課題:さらなるICT環境の充実 (10)成果:支援員の配置による学習支援の充実 課題:配置支援員の充実(予算・採用)							
本事業で対応した幼児・児童生徒数	幼稚園等 (園)	小学校 13人 (4校)	中学校 0人 (0校)	義務教育 学校 人 (校)	高等学校 人 (校)	中等教育 学校 人 (校)	特別支援 学校 人 (校)
うち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒数	/	1人 (1校)	0人 (0校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)	人 (校)
4. その他(今後の取組予定等) 令和7年度に準じた内容							

※ 枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。

※ 事業内容報告書の概要は、様式9(添付1)の5. 成果イメージ資料のポンチ絵と併せて、文部科学省ホームページで公開する。